

わくわくりんご水族館で遊ぼう

出雲市立中央保育所・幼稚園（島根県出雲市）

[4歳児]

<きっかけになった活動>

- 池の大掃除をする：昨年（3歳時）自分たちで掘った「ザリガニ池」に藻がたくさん張り、水が汚くなっていることに気付き、池の大掃除をする。水や土を全部出すと、ザリガニやフナ、メダカがたくさん見つかり、池の小動物へ興味がで始める。（4月下旬～5月中旬）
- 池の魚を増やす：池が綺麗になったことで「池に魚をたくさん逃がしたい」という思いが出てくる。家庭からいろいろな生き物を捕まえてくる。<オタマジャクシ（田んぼ） カワエビ（斐伊川） ナマズ、ドジョウ、フナ、メダカ（用水路） サワガニ（父親の職場）など>（5月中旬～6月中旬）
- りんご組で魚釣りをする：計画した魚釣りが雨天でできなかったことで、「行きたかった!」「魚釣り楽しみにしてたのになぁ」「お魚作ってお部屋でしたら?」というやりとりから、廃材を使って魚を作る。しかし、缶に色を塗る、トレーに目や模様を描いてでき上がりなど、これまでの子どもたちの意欲や思いにつながるような試行錯誤をする姿があまり見られない。（6月3日）



（保育者の思い）「体験が少なく魚のイメージをもちにくいのではないか」「子どもたちの育ちから考えると、遊びの内容が幼かったのではないか」など反省する。様々な体験を積み重ねて、魚の特徴に気付いたりイメージを広げたりできるようにして、今後も活動が展開できるようにしたい。

子どもの様子	保育者の受け止め（・）と援助（*）
<p>○新田川わくわく水辺公園に魚釣りに行く。（6/9）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家から餌を持ってくる。「鯉節とパン持って来たよ」「僕は竹輪!」「魚の口、小さいけんパン切ってきた」 ・魚は見えているが、川べりに逃げてしまう。 ・担当がカメを釣り上げる。「わぁ!カメだ〜」「先生すごい!」 ・網ですくって魚やヤゴ、アメンボを捕まえる。「やった〜!」 <p>○魚屋さんに魚を見に行く。（6/16）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「トビウオはジャンプするよ」とヒレを広げて見せてもらう。「すごい!」「綺麗だね」「トンボみたい!」 ・「あっ!ヒレがギザギザの魚がいる」「赤い魚もいるよ」 	<ul style="list-style-type: none"> *川や池の生き物図鑑、絵本「お〜い めだか」などを水槽の近くに準備する。 *魚釣りを計画する。家庭へ便りを出し、幼稚園で釣りの餌について調べていることなどを知らせ、協力を呼びかける。 *絵本「にじいろのさかな」「フィアボ」などの読み聞かせをする。 ・一緒に魚を捕りに行ったり、餌を用意したりと保護者が活動に対し協力的である。 *魚屋見学を計画する。
<p>○わくわくりんご水族館の活動（6/11～26）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「りんご組に生き物がいっぱいだね」「水族館みたい」 ・「水族館は潜る所があるがぁ」「トンネルから魚が見えるよ」ダンボールで水中トンネル作りを始める。 ・魚作り…廃材で思い思いに作る。 <div data-bbox="375 1568 699 1825" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="183 1635 343 1713" data-label="Caption"> <p>『虹色の魚』にしたい</p> </div> <div data-bbox="726 1321 917 1646" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="734 1668 909 1736" data-label="Caption"> <p>メダカだよ</p> </div> <div data-bbox="726 1825 1045 2072" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1061 1971 1348 2049" data-label="Caption"> <p>水中トンネル 水の色に塗ろう!</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・水中トンネル… 「先生、次どうしたらいいかな?」「どんな風になりたい?」 担任も一緒になりグループで相談。 「波を付けたい」「窓をもっと空けたい」「ダンボールカッターが使いたい」「魚を作って飾りたい」 	<ul style="list-style-type: none"> *魚の特徴に気付いたり、イメージを広げたり、知りたいことをすぐに調べたりできるように、絵本や図鑑を身近に置く。 ・子どもたちのつづきから、今後の活動の広がりを感じる。 *子どもたちの思いを受けとめ、ダンボールを用意する。空き箱、ラップの芯など素材集めを家庭に呼びかける。 *「どんな魚にしたい?」と一人ひとりの思いを探り、一緒に絵本や図鑑を見たり、必要な素材を探したりする。 *水中トンネルのイメージが共有できるように、一緒に話し合ったり、子どもたちの考えを図示したりする。

- ・カメの家を作ったりカメの種類を図鑑で調べたりする。「クサガメ」「お尻がギザギザだけん、イシガメじゃない？」
- ・遊びの後の集いで、各コーナーの遊びを紹介し合う。「トビウオみたいに飛ぶ(動く)魚ができたよ!」「僕もしたい!」
- ・歌「わくわくりんご水族館」を作る。



お魚レース
よ〜いドン!



「高い所からスタートしたらいいんじゃない?」
「スタートの門も付けたよ」

・積み木や牛乳パックで傾斜をつける。



外を見る双眼鏡だよ。

(6/27)

- ・水中トンネル…「海には貝がたくさんあるよ」と貝殻を貼り付け、落ちても根気強く貼り直す。「Aちゃんのトンネルとくっつけたい」
- ・魚作り…魚作りを繰り返しながら楽しんでいるB児。友達に聞きながら動く魚を作るが、動かし方がわからず、諦めそうになる。
「CちゃんやMちゃんに聞いてみたら?」
C児に聞き、動かすことができる。
「やったー!!」
- ・カメラ作り…坂道にさらに傾斜をつけて、いざカメを転がすと、早く転がる車と動かない車に分かれる。タイヤの位置を変えたり、交換したり、動力を一度外したりと試行錯誤を繰り返す。



どうやったら動くの?

- *友達が工夫している点に気付いたり、刺激を受けたりできるよう、各コーナーの遊びを集いの場で紹介する。
- *イメージが共有できるように支えてきたが、一人ひとりの思いや感じている

面白さは様々だと気付く。友達と一緒に作っていたことで、思いを出し切れていなかったのではないかと子どもたち一人ひとりについてもう一度見直す。

自分のトンネル作りを始めたことで、思いを次々と出して遊ぶ姿が見られる。個で存分に楽しむことを大切にすることで、遊びがどんどん広がった。

- *今までの体験や調べたことを織り込んだオリジナルの歌を作ることで、子どもたちの意欲や期待感が更に高まるようにする。
- *貝殻や貝殻型のマカロニ、水槽用の色付き石、透明な樹脂製の貝や石などの素材の準備をする。
- *B児の試行錯誤を見守り、友達のやり方に気付けるよう言葉かけをする。
- *担任も一緒に喜び、B児の達成感を共有する。
- ・よく転がる友達のタイヤと同じにしようとするなど、試行錯誤を繰り返している。失敗する過程も大切であると考え見守る。

考察 (科学、環境教育の視点より)

- ・池の掃除をしたことをきっかけに、飼育したり、魚釣りや魚屋に行ったりと体験を重ね、一人ひとりが池や川の生き物への興味をもつようになった。子どもたちが見たり触ったりする体験を通して、「なんでだろう」「面白い」と心を動かし、自分から図鑑で調べたり、遊びの中で再現したりと興味関心が深まっていくことを実感した。また、体験したことから絵本などの世界が重なって、子どもたちのイメージは更に広がりを見せていくことを感じた。
- ・部屋の中での魚釣りの活動は、熱中して遊び込む子どもの姿が乏しかった。この反省を基に、遊びの構想を立て直した。「子どもが、今やりたいことは何か?」「育ちから見てふさわしい活動内容か?」、子どもの目線になって見直し、活動を再構成し、保育者も一緒に遊びながら子ども一人ひとりのイメージが豊かになるような援助を心がけた。このことにより、子どもたちは次々に水中トンネル作り、魚レース、カメラ作りなどの遊びを生み出していった。

ポイント

「自分たちで作った池の水が濁っている」と気付ける感性や意欲的なかかわりにより、池は蘇りました。子どもの姿を手掛かりにして、子どもたち一人ひとりの感性を刺激し、更に魚への興味が深まるように、釣りや魚屋見学などの“本物との出会い”や“様々な体験”の場を設定した保育者の援助により、ダイナミックな表現活動へと展開しています。そして、素材や意欲的なかかわりを引き出す援助により、4歳児は「感じたことや気付いたこと、イメージしたことを表現して遊びたい」という共通の思いをもちました。保育者の環境の工夫により、創造性を発揮して協同的な取り組みを楽しむ活動になり「科学する心」が育まれています。